

文学的な文章読解において、自分の考えを再構成する力の育成

ーワールド・カフェの手法を用いた活動を通してー

福島県立安積黎明高等学校 教諭 日出山 亜希子

1 研究の趣旨

次期学習指導要領解説国語編の新設科目「文学国語」の目標には、「創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする」と掲げられている。このことから、文学的な文章を読解することで、生徒が内容や表現について自ら考え、創造的に考える力が必要とされていることが分かる。

これまでの自身の授業を振り返ると、講義型一斉授業が主であり、生徒自身が文章を読んで考えたり、他者と話し合ったりする活動を行ってはいしたが、生徒が問いについて自ら深く考える時間をつくることができていなかった。その結果、生徒は教師や他者の示す答えを待つという、受け身の姿勢をとるようになってしまっていた。生徒一人一人が能動的に文章を読んで自ら考え、多様な視点をもってその考えに向き合うことができれば、より確かな自分の考えを創造する力を身に付けることができると考えた。

そこで、本研究では、個－協働－個という活動のサイクルを経ることで、より確かな自分の考えを形成できると考え、協働活動の手段として、ワールド・カフェ^{※1}の手法を用いることとした。この活動を行った後に自分の考えを再度見つめ直し、より確かな考えを形成する力を育てたい。

※1 90年代にアメリカで始まった、メンバーの組み合わせを替えながら話し合いを続ける会話の手法。

高等学校国語科「読むこと」の指導において、以下の手立てを講じれば、自分の考えを創造し、他者との交流で多様な視点を獲得することで、より確かな考えを再構成する力が育成されるであろう。

2 研究の概要

(1) 「マイアンサーカード」による考えの形成

小説を教材として生徒が主体的に思考できる問いを設定し、自分なりの考えを形成させた。その際に、思考の軸となる根拠と理由を明確にすることができる「マイアンサーカード」を使用した。根拠と理由、自分の考えを整理することで、客観性のある考えをもたせることができるようになる。

(2) ワールド・カフェの手法を用いた他者との交流

ワールド・カフェの手法を用いて他者と交流する活動を行った。この活動を行うことによって、初めの考えからの変容や、新たな視点の獲得を見取ることができた。他者の考えを知り、新たな視点を得て考えを変えたり、自分と他者の意見を合わせて考えを形成したりすることができるようになる。

(3) ルーブリックを基にした考えの捉え直し

ワールド・カフェの活動を経て、最初に形成した自分の考えをもう一度見つめ直し、最終的な自分の考えを400字の原稿用紙に記述する。記述の際にはルーブリック表を示した。基準を示すことで、生徒自身が書くべきことを理解することができる。ルーブリックを用いることで、ワールド・カフェで獲得した視点を整理し、より確かで説得力のある文章を書くことができるようになる。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 授業で「マイアンサーカード」を複数回使用したことにより、考えを形成する際の思考の軸として活用することができるようになった。このような思考を補助するツールを用いることで、考えを論理的に形成できることに気付かせることができた。
- ワールド・カフェの活動を積極的に行うことができ、自分の考えを広げたり深めたりするために有効であることを実感することができた。
- ルーブリックを基に考えの再構築を行うことにより、自分の考えをより確かなものとして形成する力を高めることができた。

(2) 今後の課題

- 生徒自身が問いを考えたり、本文についてより深く考察したりする時間の確保が必要である。
- ワールド・カフェに関しては、ICTの利用等、様々な試みを取り入れられる可能性がある。